

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

福岡県宗像市

2022年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

宗像市 SDGs未来都市計画

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

宗像市 SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

市民活動や行政活動、企業活動の量的増加（まちの成長）や質的向上、付加価値の創造（まちの成熟）に向けて取り組み、それぞれの活動が相互に活性化されることで、「ときを紡ぎ躍動するまち むなかた」を目指す。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値		2021年（現状値）		2030年（目標値）		達成度 （%）
		年	値	年	値	年	値	
1	農業者の売上高【2.4】	2018年	25 億円	2021年	23 億円	2030年	28 億円	-67%
2	fabbit宗像の活用による女性の創業者数【5.c, 8.3, 17.17】	2020年	0 人	2021年	1 人	2030年	15 人	7%
3	市内総生産【8.1】	2016年	2,110 億円	2019年	2,199 億円	2030年	2,287 億円	50%
4	創業者数【8.3】	2019年	23 人	2021年	58 人	2030年	294 人	13%
5	観光入込客数【8.9】	2018年	5,134 千人	2020年	3,566 千人	2030年	5,500 千人	-428%
6	ブランド化に取り組む鐘崎天然とらふくの価格（フェア取引価格）【1.3】	2019年	7,308 円/kg	2021年	6,761 円/kg	2030年	7,300 円/kg	93%
7	高齢者の地域での居場所等に参加した人数【3.4】	2018年	26,313 人	2021年	11,794 人	2030年	29,913 人	-403%
8	安心して子育てができると感じる市民の割合【4.2, 4.a, 5.4】	2017年	75 %	2021年	77 %	2030年	81.5 %	31%
9	転入者数【11.3】	2017年	4,282 人	2021年	4,140 人	2030年	4,932 人	-22%
10	快適な生活環境の保全に関する満足度（市民アンケート【11.a】）	2018年	3.06	2021年	3.18	2030年	3.66	20%
11	人口集中地区内の1haあたりの人口【11.3】	2015年	59.2 人		測定中	2030年	66.7 人	-
12	世界遺産構成資産の保全活動状況（活動回数）【11.4, 12.2, 12.3, 14.1, 15.4】	2019年	14 回	2021年	16 回	2030年	20 回	33%
13	リサイクル率【12.5】	2019年	25.2 %	2021年	24.3 %	2030年	38.2 %	-7%
14	市内の温室効果ガス総排出量【13.2】	2013年	604,668 t-CO2		測定中	2022年	530,580 t-CO2	-
15	市民1人あたりの二酸化炭素排出量【13.2】	2013年	6.20 t-CO2/人		測定中	2022年	5.44 t-CO2/人	-
16	環境保全のボランティア事業への参加者数【14.1, 15.4】	2019年	3,645 人	2021年	1,876 人	2030年	4,235 人	-300%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

新型コロナウイルス感染症の影響が長引いていることから、2020年度同様、経済・社会・環境の全ての面において順調に目標達成に向け進捗しているとは言い難い。経済面では、本市のみならず、全国的に人の往来が制限されたことによる数値の悪化が顕著であり、観光客入込客数の減少はその影響をまともに受けたものと考えている。また、それらの影響が食品需要の減退をもたらし、農業者の売上高やふくひの価格にまで影響を与えている。

一方、宗像観光協会を中心とした「宗像版観光DMO」の体制構築においては、宗像観光協会が「候補DMO」となり、確実に実績を積みあげている状況であり、法人化に向け、着実に進展している。今後、法人化を加速させ、宗像版観光DMO体制の定着を図り、目標達成に向け取り組んでいく。

社会・環境面では、2020年度と比較すると、数値は若干の回復が見られるものの、高齢者の居場所づくり事業や環境保全事業は新型コロナウイルス感染症により一部事業の中止を余儀なくされるなど、実績にも大きな影響を与えている。

総じて、新型コロナウイルス感染症により中止した事業も多くあることから、コロナ禍においても事業を実施する方法を模索し、まずは新型コロナウイルス完成症流行前までの水準に回復させていくことを目指していく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	観光分野における「稼ぐ」体制の確立	観光による市内消費額	2018年 4,548 百万円	2019年 5,480 百万円	2020年 3,759 百万円		2022年 4,600 百万円	-1517%
2	自然や癒しの空間を活かした「ワーケーション」の提案による離島振興	観光入込客数	2018年 5,134 千人	2019年 4,809 千人	2020年 3,566 千人		2022年 5,200 千人	-2376%
3	官民連携による創業支援	fabbit宗像の活用による女性の創業者数	2020年 0 人	2020年 1 人	2021年 1 人		2022年 3 人	33%
		創業者数	2019年 23 人	2020年 46 人	2021年 58 人		2022年 93 人	50%
4	農業・水産業の基盤強化と高付加価値化	ブランド化に取り組む鐘崎天然とらふくの価格	2019年 7,308 円/kg	2020年 6,125 円/kg	2021年 6,761 円/kg		2022年 7,300 円/kg	93%
		農業者の売上高	2018年 25 億円	2020年 24 億円	2021年 23 億円		2022年 26 億円	-200%
5	子どもの健やかな成長・発達を支える子育て支援	地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進に関する満足度（市民アンケート）	2019年 3.08	2020年 2.99	2021年 2.97		2022年 3.24	-69%
6	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進	地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進に関する満足度（市民アンケート）	2019年 3.08	2020年 2.99	2021年 2.97		2022年 3.24	-69%
7	ふるさと学習やグローバル人材の育成	国際交流ボランティアのマッチング件数	2018年 7 件	2020年 0 件	2021年 3 件		2022年 11 件	-100%
8	高齢者を地域で支えあう仕組みづくり	高齢者の地域での居場所等に参加した人数	2018年 26,313 人	2020年 10,468 人	2021年 11,794 人		2022年 27,513 人	-1210%
9	団地再生の推進	人口集中地区の1haあたりの人口	2015年 59.2 人	測定中	測定中		2022年 62.7 人	-
		調和のとれた土地利用と魅力ある景観への形成に関する満足度（市民アンケート）	2018年 2.91	2020年 3.01	2021年 2.96		2022年 3.11	25%
10	新たな地域公共交通体系の確立	人口集中地区の1haあたりの人口	2015年 59.2 人	測定中	測定中		2022年 62.7 人	-
		調和のとれた土地利用と魅力ある景観への形成に関する満足度（市民アンケート）	2018年 2.91	2020年 3.01	2021年 2.96		2022年 3.11	25%
11	コミュニティの再構築	地域の特色を活かしたコミュニティ活動の推進に関する満足度（市民アンケート）	2019年 3.08	2020年 2.99	2021年 2.97		2022年 3.24	-69%
		住民参加による地域イベントの実施数	2018年 50	2020年 54	2021年 35		2022年 62	-125%
12	国土強靱化計画の策定と推進	環境基準達成率（釣川水質調査BOD、道路騒音）	2018年 99.3 %	2020年 100 %	2021年 100 %		2022年 100 %	100%
13	宗像国際環境100人会議	「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」に関心がある人の割合	2018年 67 %	2020年 65 %	2021年 66 %		2022年 73 %	-17%
		世界遺産構成資産の保全活動状況（活動回数）	2019年 14 回	2020年 15 回	2021年 16 回		2022年 18 回	50%
		環境保全のボランティア事業への参加者数	2019年 3,645 人	2020年 1,821 人	2021年 1,876 人		2022年 3,825 人	-983%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
14	環境保全活動の推進	環境基準達成率（釣川水質調査BOD、道路騒音）	2018年 99.3 %	2020年 100 %	2021年 100 %		2022年 100 %	100%
		環境保全のボランティア事業への参加者数	2019年 3,645 人	2020年 1,821 人	2021年 1,876 人		2022年 3,825 人	-983%
15	環境保全のボランティア事業への参加者数	環境保全のボランティア事業への参加者数	2019年 3,645 人	2020年 1,821 人	2021年 1,876 人		2022年 3,825 人	-983%
16	3Rの推進	自然環境の保全と再生に関する満足度（市民アンケート）	2018年 3.07	2020年 3.19	2021年 3.18		2022年 3.27	55%
		リサイクル率	2019年 25.2 %	2020年 24.4 %	2021年 24.3 %		2022年 38.2 %	-7%
		ごみ総排出量	2018年 31,092 t	2020年 30,323 t	2021年 29,500 t		2022年 29,298 t	89%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

地域事業者を対象とした登録・認証制度の導入については引き続き検討が必要だが、宗像観光協会への支援により、「宗像版観光DMO」の体制構築は着実に進展している。また、これまで大学や企業と連携を強化してきたことが、現在、実際のプロジェクトとして発展してきている。今後はステークホルダーを増やしつつ、具体的な連携事業につなげていく必要がある。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

経済面では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光客入込客数や観光による市内消費額値は大幅な減少となったが、創業支援においては、官民連携によるfabbit宗像の取組みや「宗像者応援補助金」、「がんばる中小企業者応援補助金」等の創業期から事業転換期までの切れ目のない支援パッケージの構築が着実な成果につながっている。社会面では、新型コロナウイルス感染症の影響により、住民参加のイベントの多くが中止を余儀なくされた。結果として、コミュニティ活動への満足度も低下したものと考えている。しかしながら、大学生による「まちの課題解決プロジェクト」として市内の2大学（福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学）と連携し、市内の学校や地域を舞台に23の事業を実施することでまちの賑わいを創出することができた。今後、連携大学を増やし、さらに事業を拡大していくことで、地域の魅力の向上につなげ、副次的な効果として大学生の市内での創業や定住を目指す。環境面でも住民参加の環境保全事業を実施できなかったが、九州大学と連携し海洋ごみ等の組成調査を行うことができた。これから、この調査結果を活かし、科学的な視点から環境保全活動に取り組み、より効果的な環境保全活動につなげていきたい。また菓子メーカーの湖池屋との連携事業では、本市とのコラボチップスを開発・販売し、売上の一部を海洋保全に寄附いただく事業のほか、湖池屋に加え、テラサイクルジャパンとの3者連携事業では、回収した海洋プラスチックごみで買い物かごを製作するプロジェクトを実施した。引き続き、大学や企業との連携を進めながら、「世界遺産の海」を守り世界遺産の価値を継承していくことを目指す。

No.9, 10の指標「人口集中地区の1haあたりの人口」については、国勢調査の結果から算出しており、5年毎しか算出できないため、指標の見直しを検討中。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・指標的には全般的に厳しい状況だが、その中で域学連携による事業の進捗は評価できる。域学連携では事業の持続性が課題であるので、その点を意識した仕組み作りを含めた更なる取組を期待する。
 ・全体的に設定したKPIの達成率が低い状況にあるように見受けられる。コロナ禍でのリアル参加ができないことは致し方ないため、アフターコロナを見据えて、今後の実践に向けた政策及び体制を整えて取り組む事が不可欠であると思料する。